

教科名	国語科	校 種	中学校
-----	-----	-----	-----

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1 年	国語	必	4	5時間のうち1時間を書写に配当
	書写	必	1	
2 年	国語	必	4	5時間のうち1時間を書写に配当
	書写	必	1	
3 年	国語	必	4	

科目名（教科名）		国語（国語科）				
学年		1	単位数	4	必修・選択・展開	必修
目的	1. 思考力・読解力を養い、「言葉」の持つ力を交流のツールとしながら仲間とともに成長する自分を実感する。 2. 様々な作品に触れることで、語彙力を養うと共に、言葉・芸術・社会・自然についての認識を広げる。 3. 時代を超えて語りかけてくるものを感じ取り、伝統文化・日本語の美しさを大切にすることを学ぶ。					
学 期	授 業 の 項 目			内 容		
1 学 期	導入 詩 単元1 学びをひらく 単元2 新しい視点で 単元3 言葉をつなぐ 作文・読書感想文コンクールに向けての取り組み			・小説や随想に描かれた登場人物の心理をとらえる ・展開や表現に即して、作品のテーマやモチーフをとらえる ・文章の構成をとらえ、筆者の主張を要約し、理解する ・文章の様々な表現技法を学ぶ ・原稿用紙の使い方 ・字数制限に合わせて考えをまとめ、表現を膨らませる経験をする		
2 学 期	単元4 つながりの中で 単元5 いにしへの心に触れる 単元6 論点を捉えて 漢字能力検定への取り組み			・音読と暗誦により、古文を味わい読解方法を学ぶ ・古文の特徴を知り、歴史的仮名遣いの表記に慣れる ・故事成語や四字熟語を習得する ・それぞれの取得級の目標に向かい、合格点に達するよう学習する		
3 学 期	単元7 自分を見つめて 「母の日作文」に向けての取り組み			・文学作品を鑑賞し、様々な価値観や人生を体験する ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養う ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある ※年間を通じて文法知識の習得に取り組む		
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	社会生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。			・定期試験の知識問題 抜き出し問題、正誤判断	
	【思考・判断力・表現】 (30%)	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。			・定期試験の思考問題 論旨のまとめ、意見記述、 ・作文・プレゼンテーション ・発表・話し合い	
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。			・振り返り ・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出	
評価の方法と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 20 % 書写 10 %					
教科書・副教材等	● 教科書：「中学校国語」（光村図書） ● 問題集：「i ワーク」（育進社） 「新文法ノート」（浜島書店） ● 副教材：「新国語の便覧」（正進社）					

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		書写（ 国語科 ）			
学年	1	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	1. 字形を整え、文字の大きさ、配列・配置などに気をつけて書くこと。 2. 漢字の楷書とそれらに調和した仮名を注意して書くこと。 3. 漢字の行書の基礎な書き方を理解して書くこと。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	○はじめに ○楷書で書こう ○硬筆			・筆記具の歩みを知る ・毛筆書写の姿勢・執筆法 ・文房四宝とその扱いについて ・文字の筆使い・筆順・字形・配列など整えて書く ・楷書の基本的な点画に留意して書く 始筆・送筆・終筆 ・暑中見舞い状 ・全国硬筆作品展覧会出品	
2 学 期	○楷書と仮名を調和させて書こう ○創作 ○書き初め ○実用書			・いろは歌 ・学院祭書道展の作品づくり ・全国書きぞめ作品展覧会出品 ・年賀状と季節の挨拶状	
3 学 期	○行書で書いてみよう ○目的や必要に応じて書こう			・行書と楷書の違いを知る ・行書の基本的な筆法を習得する 丸み・連続・方向・形の変化 ・硬筆練習帳	
評価の 観 点	【知識・技能】 (30%)	楷書の基本点画や、行書の基本筆法、ひらがなの筆づかいなど、社会生活に必要な書写の知識や技能を身につけるとともに、我が国の文字文化に親しみ、理解することができたか。			・学習プリント ・練習作品 ・展覧会レポート
	【思考・判断力・表現】 (40%)	基本筆法をふまえたうえで、書を通して考える力や、豊かに感じ想像する力を養い、日常生活において文字を使って伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができたか。			・創作作品 ・硬筆作品展覧会出品
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	先人が書いてきた文字や、遺されてきた文献を読んで、書かれた文字や内容について理解し、興味を持つことができたか。伝統的な言語文化に触れ、大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度が養えたか。			・授業態度・課題提出 ・硬筆練習帳の取り組み方
評価の 方法と 割 合	● 評価方法：作品制作点と平常点（硬筆練習帳など）により、成績を算出する。 ● 割合：作品制作点70％・平常点30％ 国語の成績の中に、書写の成績を含んで、学期毎に算出する。				
教科書・ 副教材等	● 教科書：中学書写（教育出版） ● 副教材：中学書写準拠 硬筆練習帳（教育出版）				

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		国語（国語科）			
学年	2	単位数	4	必修・選択・展開	必修
目的	1. 思考力・読解力を養い、「言葉」の持つ力を交流のツールとしながら仲間とともに成長する自分を実感する。 2. 様々な作品に触れることで、語彙力を養うと共に、言葉・芸術・社会・自然についての認識を広げる。 3. 時代を超えて語りかけてくるものを感じ取り、伝統文化・日本語の美しさを大切にすることを学ぶ。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	単元1 広がる学びへ 単元2 多様な視点から 単元3 言葉と向き合う 作文・読書感想文コンクールに 向けての取り組み			・様々な文学のジャンルを知る ・展開や表現に即して、作品のテーマやモチーフをとらえる ・文章の構成をとらえ、筆者の主張を要約し、理解する ・文章の様々な表現技法を学ぶ ・原稿用紙の使い方 ・字数制限に合わせ思いをまとめ、表現を膨らませる経験をする	
2 学 期	単元4 人間のきずな 単元5 論理を捉えて 単元6 いにしへの心を訪ねる 単元7 価値を語る 漢字能力検定に向けての取り組み			・音読と暗誦により、古文を味わい読解方法を学ぶ ・古文の特徴を知り、歴史的仮名遣いの表記に慣れる ・故事成語や四字熟語を習得する ・それぞれの取得級の目標に向かい、合格点に達するよう学習する	
3 学 期	単元8 表現を見つめる 漢字能力検定に向けての取り組み 「母の日作文」に向けての取り組み			・文学作品を鑑賞し、様々な価値観や人生を体験する ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養う ・上代から近世までの文学史を学習する ・近代から現代までの有名作品群を知り、教養を身に付ける ・それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある※年間を通じて文法知識の習得に取り組む	
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	社会生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。			・定期試験の知識問題 抜き出し問題、正誤判断
	【思考・判断力・表現】 (30%)	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。			・定期試験の思考問題 論旨のまとめ、意見記述、 ・作文・プレゼンテーション ・発表・話し合い
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。			・振り返り ・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 70 % 平常点 20 % 書写 10 %				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「中学校国語」(光村図書) ● 問題集 : 「iワーク」、「iワーク+」、「iワークドリル」(育進社)「新文法ノート」(浜島書店) ● 副教材 : 「新国語の便覧」(正進社)				

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		書写（国語科）			
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	1. 字形、文字の大きさ・配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと。 2. 漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、読みやすくていねいに書くこと。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1学期	○楷書の特徴 ○行書の特徴 ○創作 ○硬筆 ○実用書			・楷書と行書の違いを知る ・学院祭書道展の作品づくり ・全国硬筆作品展覧会出品 ・暑中見舞い状	
2学期	○楷書を深める ○行書を深める ○仮名 ○書き初め ○実用書			・中国の古典作品の筆使い・字形・配列を学ぶ ・行書に合う仮名、連綿 ・全国書きぞめ作品展覧会出品 ・年賀状と季節の挨拶状	
3学期	○漢字と仮名の調和 ○創作 ○硬筆			・仮名の表現 ・平仮名…いろは歌のもとになった漢字 ・短歌、俳句を書く ・中学校書写の集大成としての作品づくり ・硬筆練習帳仕上げ	
評価の観点	【知識・技能】 (30%)	楷書の基本点画や行書の基本筆法、ひらがなの筆づかいなど、社会生活に必要な書写の知識や技能を身につけるとともに、我が国の文字文化に親しみ、理解することができたか。			・学習プリント ・練習作品 ・展覧会レポート
	【思考・判断力・表現】 (40%)	基本筆法をふまえたうえで、書を通して深く考える力や、豊かに感じ想像する力を養い、日常生活において文字を使って伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができたか。			・創作作品 ・硬筆作品展覧会出品
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	先人が書いてきた文字や、遺されてきた文献を読んで、書かれた文字や内容について理解し、興味を持つことができたか。伝統的な言語文化に触れ、大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度が養えたか。			・授業態度・課題提出 ・硬筆練習帳の取り組み方
評価の方法と割合	● 評価方法：作品制作点と平常点（硬筆練習帳など）により、成績を算出する。 ● 割合：作品制作点70％・平常点30％ 国語の成績の中に、書写の成績を含んで、学期毎に算出する。				
教科書・副教材等	● 教科書：中学書写（教育出版） ● 副教材：中学書写準拠 硬筆練習帳（教育出版）				

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		国語（国語科）			
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	必修
目的	1. 語彙力を豊かにし、文章構成と適切な文章で正しく表現する力を養う。				
	2. 様々な作品を通して思考力・読解力を養いながら、視野を広げ自己の価値観を構築していく。				
3. 古典の学習に必要な事項を学び、高等学校での学習の準備をする。					
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	導入 詩	・ 情景を想像しながら音読し、語感を磨く			
	単元 1 深まる学びへ	・ コミュニケーションのあり方について考え、表現の大切さを知る			
	単元 2 視野を広げて	・ 自分にとっての言葉を見直し、自覚的な言葉の使い手となる			
	単元 3 言葉とともに	・ 俳句の文学的価値を学び、風景や心情を読み取る			
	作文・読書感想文コンクールに向けての取り組み	・ 原稿用紙の使い方			
		・ 字数制限に合わせ思いをまとめ、表現を膨らませる経験をする			
2 学 期	単元 4 状況の中で	・ 登場人物の生きた時代背景を考えながら文学作品を鑑賞する			
	単元 5 自らの考えを	・ 近代の中国史と作者の生き方を見つめる			
	単元 6 いにしへの心を受け継ぐ	・ 筆者の主張を文章の構成に沿って要約する			
	単元 7 価値を生み出す	・ 近世の紀行文の代表作に触れ、伝統文化との接点を確認する			
	漢字能力検定への取り組み	・ 説明文や評論の構成方法を学び要旨を的確にとらえる			
		・ それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する			
3 学 期	単元 8 未来へ向かって	・ 筆者の体験や気持ちに共感しながら心理の変化をとらえる			
	中学校の総復習	・ 文学史の総復習			
		・ 学力診断テストに向け、中学校の総復習をする			
		※漢字語句・語彙、文法は通年で学習していく			
		※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある			
評価の 観 点	【知識・技能】 (30%)	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。			・ 定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・表現】 (40%)	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			・ 定期試験の思考問題 (例) 意見記述、語句説明、論述問題 ・ レポート・プレゼン・発表 ・ 話し合い・作品制作
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思うや考えを伝え合おうとする。			・ 振り返り ・ 小テスト・ノート作り ・ 授業態度・課題提出
評価の 方法と 割 合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。				
	● 割合：定期試験 70 % 平常点 30 %				
	3学期は平常点 30 %に学力診断テスト 10 % を含む				
教科書・ 副教材等	● 教科書：「中学校国語」（光村図書）				
	● 問題集：「i ワーク」（育新） 「新文法ノート」（浜島書店）				
	● 副教材：「新国語の便覧」（正進社）				

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。